

扶桑菅廟最初
防府天満宮
佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名「酒垂山」からとったものです

佐加太利

令和元年
春夏号

103号

目次

1 点描 防府天満宮大石段花回廊

2 巻頭言

3 奉祝御大礼

く新元号「令和」を迎えてく

5・4 松崎天神縁起絵巻

シンポジウム報告

7・6 生誕一八〇年「高杉晋作展」
寄稿 「奇兵隊と元号」

8 青年部「若梅会」
創立五周年を迎えて
天神おんな神輿コンテスト

TOPICS

9 崇敬会だより

結婚おめでとう

ひたぶる

11・10 社務所だより

天神様の冬から春く日誌抄く

12 これからの祭事行事



大御心を戴いて

感謝と希望と

宮司 鈴木宏明

五月一日、皇太子殿下におかせられましたは目出度くも新天皇に御即位され、元号も「令和」と改められました。天皇皇后両陛下並びに御皇室の弥栄をこ祈念申し上げます。

平成の御代、天皇陛下は常に日本と世界の平和を祈られ、そのお蔭で日本は戦争のない穏やかな時代でありました。陛下は御在位中、先の戦争をお気遣いになられ自ら激戦地へと赴き、英霊に対して感謝と慰霊の誠を捧げられました。その平和であることの尊さをお示しになられた天皇皇后両陛下のお姿は私たちの心にもいつまでも刻まれることでありましょう。ただ自然災害も多く発生しました。両陛下はこれらの被災地を巡られ、傷ついた被災者の心にしつかりと寄り添ってくださいました。膝をつき一人ひとりに話しかけられたそのお姿に被災者のみならず私たち国民は有難く勇気づけられ、人と人との絆を深め生きる力へと繋げることができました。この天皇陛下の御存在に対する感謝の気持ちを忘れることはできません。

そして今、新天皇の御即位に国中が希望とお祝いの雰囲気でも満ち溢れています。改元によって制定された元号「令和」は万葉集「梅花の歌三十二首」の序文から引用されました。その歌は天平二年（七三〇）大宰帥^{だざいのそら}であった大伴旅人^{おわたものたびと}の庭で開かれた宴で、長い冬を耐えて咲く梅の花を愛でながら詠まれたものとされています。しかしその雅な宴とは裏腹に都で藤原氏に押しされ没落しつつあった大伴氏の胸中を推し測る時、私たちには自然と大伴氏と道真公のお姿が重なり合い、同じ大宰府の地で天皇を尊び平和で安らかな世を願われた天神さまのお心も偲ぶことができました。

今後とも驚異的な技術の進歩により人工知能といった分野が進展していくでしょう。そんな時代にあつて「令和」の響きは、天皇陛下を戴く日本の美しい心の文化を世界に表すに相応しいものと感じております。

※本ページの天地に掲載した（重文）松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその■の部分を紹介しています。



御大礼（新元号「令和」）を迎えて

御大礼：天皇の即位に関わる一連の儀式の総称



▲表参道にご到着になられた殿下（当時）



▲熱心に宝物をご覧になる殿下（当時）

新天皇陛下は皇太子殿下時代の平成二年四月十三日ご来防、当宮にもご参拝戴きました。楼門内で拝礼された後、歴史館で宝物をご覧になりました。殿下は「中世の海上交通路」をご研究されておられましたので、宝物の中でも特に「松崎天神縁起絵巻」巻二に描かれている「菅公左遷の船旅」の場面を熱心にご見学になりました。

天満宮の長い歴史の中で初めてご皇族の方がご参拝されたことに、当時の鈴木健一郎宮司はその喜びと殿下のお人柄を次のように詠まれました。

比類なき英知秘めまます皇太子

笑みおだやかに降り立ち給ふ

当時を知る防府の市民はこの度の御即位に際し、新天皇陛下に格別の親しみを感じていることと思います。

さて、この度の御退位による御代替わりで、国内は新天皇御即位に向けお祝いムード一色となりました。テレビなどでは連日上皇となられる陛下の「戦地慰霊と被災地慰問の旅」や元号に関する番組が放送され注目が集まりました。お蔭で私達はその報道を通し、象徴として国民の安寧を只管に祈られる陛下のお姿を拝

見でき、御皇室を戴く日本の美しい伝統と文化に理解を深めることが出来たのではないのでしょうか。

毎年ゴールデンウィークに当宮表参道大石段に「幸せます」の花文字を描く「花回廊」という行事を開催しています。

改元の今年は防府市長を先頭に官民一丸となり、四月末まで「平成」五月一日からは「令和」の文字を描き即位をお祝い致しました（表紙）。そしてそのような日本国民の歓喜の様子は国内外に配信され、世界からも祝意を戴くことができました。

海外には王室をもつ国がありますが、国王の地位は鬭争の末に敵を倒して勝ち取ったものです。これに対し、天皇は万世一系の血統で受け継がれるものです。それ故世界の権力者からも最高の敬意がはられる、他に類を見ない御存在なのであります。私達はどんな時代にもおいても天皇陛下と御皇室に誇りと感謝の気持ちをお忘れはなりません。このことに強く思いを致す改元となりました。これからの御大礼の諸儀が恙なく齎行されますことをご祈念申し上げ、天皇皇后両陛下と御皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

▼4月30日「平成」から「令和」へ“改元”（並べ替え）を終え、池田豊市長（宮司左）が首頭を取り参拝者と共に万歳して喜んだ

▼「令和」と書かれた額を手にして記念写真を撮る参拝者





シンポジウム(研究会)

防府市地域交流センターアスピラート音楽ホールにて開催

本シンポジウムは、会場定員を遙かに超える約八〇〇人の方々にご来場頂き、その関心の高さに主催者として驚きと喜びに包まれました。

開会にあたり、山口県知事の村岡嗣政様・防府市長の池田豊様より丁寧なご祝辞を賜りました。その中でお二人は宮司の本シンポジウム開催への熱意を受けとめ、「松崎天神縁起絵巻の重文から国宝昇格への期待」を述べて下さいました。

その後、シンポジウムでは防府市出身で昨秋、文化功労者に選ばれた高樹のぶ子氏と地図コンサルティング・測量士 遠藤宏之氏よりご講演を賜りました。講演の中で、高樹氏は「絵巻を中心とした防府の歴史ストーリー」を作ることができれば、防府の観光に大いに活用できる」と提言され、遠藤氏からは七〇〇年前の防府の地形を調査再現した上で、「縁起に描かれた風景は再現した地図と限りなく一致する」と発表されました。

後半は、六人の研究者による研究発表、最後のパネルディスカッションでは、「絵巻が制作された時代背景や絵巻物を通じてその時代の生活を蘇らせることができる」など、たくさんの方の活発な意見が述べられました。また遠藤氏による「第六巻の風景と再現地図の一致性」からも、明らかに縁起は当時の防府の地形情報をもとに描かれていることに言及した上で、「天神縁起といえは北野天満宮創建を表したものがもとで、その最古とされる北野天満宮伝来の『根本縁起』から始まる絵巻群をさすことが多いが、松崎天神縁起絵巻第六巻には、防府の地に日本で最初の天満宮が創建されたことが描かれている。地方に存在している多数の天神縁起絵巻には自社の創建の由来を描いたものがあり、本研究会ではそのような



宮司挨拶



村岡嗣政山口県知事祝辞



池田豊防府市長祝辞



高樹氏とは旧知の防府市出身の世界的ピアニスト原田英代さんによるサプライズ花束贈呈



満員御礼

研究発表者

同志社大学名誉教授 竹居明男氏

「防府天満宮（松崎天神社）の歴史

根津美術館理事・学芸部長 松原茂氏

「松崎天神縁起絵巻の絵と書」

元防府市文化財課課長 吉瀬勝康氏

「松崎天神縁起絵巻と中世防府の景観」

京都大学大学院教授 富島義幸氏

「松崎天神縁起絵巻の建築表現」

立正大学教授 佐多芳彦氏

「松崎天神縁起絵巻の風俗描写」

岡墨光堂代表取締役 岡岩太郎氏

「文化財を守る装潢修理

「松崎天神縁起絵巻の修理」

講演者



作家 高樹のぶ子氏
「私と天神さま」



地図コンサルティング・測量士 遠藤宏之氏
「地図から考える絵巻、絵巻から考える地図」

松崎天神縁起絵巻シ

平成31年3月2日(土)

地形と発掘調査によって再現された700年前の防府の地図と松崎天神縁起絵巻第6巻の比較



▲松崎天神縁起絵巻第6巻社頭繁栄の図(右部分)



▲松崎天神縁起絵巻第6巻社頭繁栄の図(左部分)

向島と思われる島、現在では干拓や土砂の堆積で陸地となってしまった海、国衙と思われる建物、条理の跡と思われる網の目の区画、区画に沿って直角に曲がる用水路、参道から海に真っ直ぐに延びる道、防府天満宮裏にある山など、位置関係が正しく描かれています。おそらく絵を書いた絵師が実際に防府に来たか、詳しい情報を与えられて描いたと考えられます。

絵巻を『根本縁起』から始まる絵巻に対して『在地縁起』(ご当地縁起)と名付け、天神縁起の中の一つの新しいジャンルとして確立できるのではないかとすれば松崎天神縁起絵巻はその魁である。」と結びました。

シンポジウムを終えて、一同、松崎天神縁起絵巻の学術的な価値を更に高め、更に多くの人にその存在と価値を知って戴くだけではなく「在地縁起」(ご当地縁起)というジャンルを周知、発展させ文化財としてさらなる高みへと進めるよう努力してゆくことを確認できました。

コーディネーター・パネリスト



北海道大学准教授 京都国立博物館
鈴木 幸人氏 学芸部長
朝賀 浩氏



パネルディスカッションの様子

生誕一八〇年

「高杉晋作」展

天神さまを信仰した
幕末の風雲児

展示期間 平成三十一年四月二十七日～令和元年十月二十日

歴史館拝観料 五〇〇円（二十名以上団体 四〇〇円）・高校生以下無料

後援：防府市教育委員会

監修：防府天満宮歴史館

顧問 一坂太郎

開催のご挨拶

本年は、高杉晋作の生誕一八〇年の年にあたります。その晋作は菅原道真公を敬愛し、己こそ道真公の一番の理解者であると自負していました。

道真公は時平の陰謀で大宰府に流されましたが、その身の上にあっても皇室への誠心を忘れず、最後まで自らの潔白を天に祈られました。しかし公の死後の天変地異は正直がなす御霊の力のためだと悟り左遷の詔を破棄し公の名譽を回復されたのでした。この道真公の生き方を知る晋作自身は、正しいことを行っているのに、周りに理解されないことや周囲の誤解から獄に繋がれた際、道真公と自身との境遇を重ね、たとえ今自分が理解されずともきつと後の時代の人が道真公のように、正しく評価してくれると信じていました。そこには天神さまとしての「菅原道真公」でなく、一人の敬愛すべき偉人である「菅原道真」の姿がありました。そして道真公の生き方を心の支えとして明治維新を推し進めてゆきました。

この展示会では、晋作の生涯を直筆の書を中心に公開するとともに、晋作を支えた同志であり防府天満宮とも縁深い、久坂玄瑞・野村望東の書も併せて展示致します。

また、市内書家の富永鳩山氏に晋作の書を評して戴きました。若い時・苦しい時・酔った時・嬉しい時・病に臥せた時など、様々な状況で書かれた書に彼の心の機微がどのように現れているかわかりやすく解説しております。是非、皆様足をお運び下さい。

防府天満宮 宮司 鈴木宏明

奉祝改元記念

「奇兵隊と元号」



一坂太郎

書家 富永鳩山・書評



歴史館前にてテープカットの様子（ほうふ宣伝部長ぶっちー（中央）と池田市長、江山市教育長、喜多村防府商工会議所会頭、羽嶋防府観光コンベンション協会会長）

元号（年号）とは古代中国を発祥とする紀年法（きねんぽう）の一種で、日本では大化（たいか）（六四五）から始用されました。江戸時代は「禁中並公家諸法度（きんちゅうならびにきょうけしよほつと）」により、新元号の決定は朝廷と幕府が共同作業で行う建前になっていました。改元のタイミングは即位の他、災害や異変の場合もありました。現在のように一世一元が定められたのは、慶応（けいおう）から明治に改元された明治元年（一八六八）九月のことです。

幕末の孝明天皇（こうめいてん）の御代は弘化（こうか）・嘉永（かえい）・安政（あんせい）・万延（まんえん）・文久（ぶんきゅう）・元治（げんじ）・慶応（けいおう）と、二十年ほどの間に改元が繰り返され、いかに激動の時代だったかが分かります。中でも「元治」は、元年二月から二年四月まで一年余りしか使われず、「慶応」と改元されました。慶応は中国の古典『文選（もんせん）』中の「慶雲応輝（けいうんおうき）」が典故（きご）です。

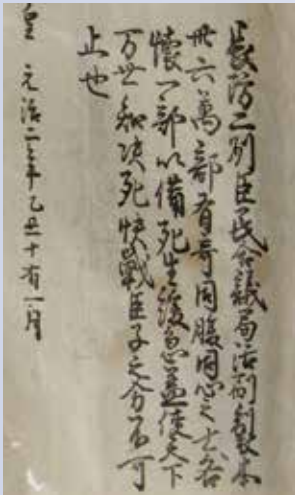
ところが、長州藩内には慶応を認めず、元治を使い続けた人たちがいました。たとえば萩市須佐の老松神社や三蔭山神社の石鳥居や石灯籠、靈標（れいひょう）には「元治三年」「元治四年」と、存在しない年が刻まれています。あるいは、美祿市大田の金麗社（きんれいしゃ）に奇兵隊が奉納した石灯籠（※1）には、「元治四年」とあります。他にも長州藩が三十六万部印刷した『長防臣民合議書（ちやうぼうしんみんごうぎしよ）』（※2）に「元治二年乙丑十有一月」、文書では「元治五年」の二月というのも確認されています。十五代将軍の徳川慶喜（とくがわけいき）に應じると解釈したため拒否したとの説がありますが、おそらく俗説（ぞくせつ）でしょう。

実は、改元の理由の方に問題があったようです。元治元年七月、前年八月十八日の政変により京都政局から追放された長州藩が京都に攻め込みました。天皇は激怒し、敗れた長州藩に「朝敵（あそく）」の烙印（ろうくわん）を押します。そして将来、この戦いが「元治の乱」と呼ばれることを想定し、改元します。そのさいの詔（みことり）には、「防長凶徒（ぼうちやうきゆうと）」とも書かれています。

しかし、長州藩は、「これは冤罪（えんざい）だ」と訴え続けました。改元を認めたら、自分たちの罪も認めたことになると考えた人たちのこだわりが、王政復古（おうせいふくこ）により長州藩が復権するまで、元治の元号を使い続けさせたのです。



※1 金麗社（防府天満宮分社）の参道沿の石灯籠



※2 「長防臣民合議書」元治二年の字が見られる



三歳になった息子が自分の病室に桜花の一枝を持って来てくれた時の喜びの即興詩（いきようし）でしょう。墨（すみ）をついで、一気呵成（いちきかせい）に筆（ふで）を走らせた墨跡（すみあと）がよく分かります。たつぷり墨（すみ）を含ませ「侍（侍）」から「慰（慰）」まで、次に「我（我）」で墨（すみ）をつぎ「得（得）」まで、「桜（桜）」から「枝（枝）」まで「好（好）」から「対（対）」まで「座（座）」から「病（病）」まで「在（在）」から「肌（肌）」までと、墨（すみ）つぎや文字（もじ）の大小（おほいさ）によって紙面（かみめん）は変化（へんげん）に満ちて、一幅（いっぷく）絵（え）のようです。よほど嬉（うれ）しかったのでしょ。晋作（しんさく）の傑作（かく）の一つです。



長州軍は各地で圧勝（あつしょう）していますが、晋作（しんさく）は略血（りやくけつ）して床（とこ）に臥（ふ）すことになりました。師（し）や友（とも）が先に逝（い）き、自分（自分）はこんな姿（すがた）で生きながらえている。といった詩（うた）ですが、身体（からだ）は正直（ちかじき）でこれまでの起筆（きひつ）の迫力（せきりき）や筆力（ひつりき）もないようです。七言（しちげん）絶句（てつこ）の詩（うた）と落款（らくかん）を左右（さゆう）に乱（みだ）れず（みだ）りに書き下（か）した感性（かんせい）は晋作（しんさく）らしさを残（のこ）しています。



一坂顧問による解説

一坂顧問
今後の講演案内

9月8日
鈴虫放生祭 記念講演
「晋作と望東」
防府天満宮歴史館地下ホールにて
15時30分～（約60分）



▲昨年の鈴虫放生祭・天神の舞奉納 於：大専坊

8月18日
高杉晋作生誕180年記念講演
「晋作あれこれ」
防府天満宮大専坊にて
13時30分～（約90分）





「若梅会」 創立五周年を迎えて



会長

宇野好一

当会は、平成二十六年に防府天満宮での奉仕活動を通して、日本の文化・伝統を若い世代に伝えていくことを主な目的として発足致しました。

以来注連縄の奉製や御誕辰祭（夏祭り）花火大会の警備を中心に活動し五年目を迎えることができました。これも偏に天神様の御加護と会員の皆様をはじめ天満宮のご指導の賜物と深く感謝しております。

これまでの活動を振り返りますと、それまで注連縄を奉納されていた方々の高齢化と後継者不足により奉製が叶わなくなり、当会が引き継がせて頂いたことが思い起こされます。初年度はコツを掴めず大変苦労しましたが、年を重ねる毎に天神様に相応しい立派な注連縄を作れるようになりました（自画自賛）。

これからも会員一同は、十周年に向け注連縄奉納をはじめ諸活動を通じて、楽しく親睦を深め、「若梅会」の輪を広げていきたいと考えております。会員の皆様を始め天満宮様のご協力をお願い申し上げます。



▲注連縄は御神幸祭（11月第4土曜日斎行）1週間前のおはけ神事で架け替えを行う。



▲地域の伝統文化を若い世代に伝える為、市内の高川学園中学校生徒に体験学習の一環としてご奉仕頂いている。

※「若梅会」とは、昔公が愛した「梅」と若い力で天満宮を支えるとの願いが込められている。

第三十一回（平成三十年十二月二十三日）

天神おんな神輿写真コンテスト

● 防府天満宮賞

「天神おんな神輿」

長門市

なかの 中野 紀男

● 防府市長賞

「激流」

防府市 原伸二郎

● 防府商工会議所会頭賞

「小春日和」

山口市 樋口琢哉

● 防府観光コンベンション協会会長賞

「心がひとつに」

熊毛郡平生町 野村和彦

● 防府天神祭振興会奨励賞

「担ぎ『手』」

山口市 齊藤 暁

その他人選作品 三〇点

応募総数 二二七点

たくさんのご応募有難うございました。

TOPICS

インスタ映え!

毎年恒例の防府天満宮大石段花回廊。今年は、改元に伴い4月30日までは「平成」、5月1日からは「令和」の花文字を描きました。連休中、天満宮に参拝された多くの方々は「平成」の30年間の思い出と共に、これから始まる「令和」という新しい時代に気持ちを馳せ、花回廊を写真に収められたことと思います。写真を撮られた皆さん！是非SNSに投稿してみてください。

きっと天神様の御加護がありますよ！（笑）



防火訓練

文化財防火デーを前に防府市消防本部主催のもと行われました。当日は、回廊西側の出火を想定し職員の見守り期間消火や参拝者の避難誘導を行った後、延焼を想定し消防車数十台による連携した迅速な消火訓練が行われました。

職員一同は常日頃からの文化財の保護と防火意識の重要性を改めて確認致しました。



▶消防隊による一斉放水

文化財防火デーを前に防府市消防本部主催のもと行われま

御網代輿

昨年（写真丸印部分）が折れ曲がり修理が必要となりました。市内の日立笠戸重工業様にご相談したところ、快くご奉仕により修理頂きました。誠に有難うございました。日立笠戸重工業様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。



昨年（写真丸印部分）が折れ曲がり修理が必要となりました。市内の日立笠戸重工業様にご相談したところ、快くご奉仕により修理頂きました。誠に有難うございました。日立笠戸重工業様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

日誌抄 (平成三十一年〜令和元年五月)

- 毎月1日、15日、25日は月次祭
- 毎月1日は朔日詣り（朝粥念、毎月25日は天神市（縁日）・茶会）
- 1月1日 歳旦祭
- 1月3日 書き初め会、梅茶接待
- 1月8日 天神おんな神輿 写真展
- 5日 新始式
- 7日 七草粥の会
- 8日 愛媛県松山市三嶋神社奉賛会様13名正式参拝
- 9日 愛媛県松山市大給馬設置（鳥置空港・米子空港・山口宇部空港・岩国錦帯橋空港）
- 9日 貞宮遙拝式
- 11日 若者サポーターセンター10名様清掃奉仕
- 14日 弓始式
- 16日 「通り松」防除作業
- 19日 NEOBALLAD上頭巨様正式参拝
- 20日 ハーレータビッドソン・バルコム広島チャプター71名様参拝ハーレー56台交通安全祈願祭、牛替神事奉仕抽籤児童説明会
- 24日 防府市文化財防火デー消火訓練
- 25日 月次茶会表流水月会防府支部・奉仕、役員会
- 27日 日立笠戸重工業様御網代輿修理奉納、牛かえ神報新聞折込
- 30日 総代就任奉告祭
- 2月2日 節分祭並びに第一〇八回牛替神事
- 2月3日 牛替神事福運者当籤番号景品引換
- 4日 牛替神事当籤者神牛引き渡し（神牛役・田中周一様、山根直久様）、第43回防府お針祭
- 10日 紀元祭、人形感謝祭人形受付開始
- 11日 出世梅奉製作業総代23名奉仕
- 13日 第三十四回梅まつり（期間中土日開催…敬神婦人会甘酒接待、出世梅無料配布、山縣酒造梅酒試飲会）
- 17日 梅まつり始祭（稚児舞紅わらべ奉納）
- 17日 池坊防府支部奉納生花展、脇本順子・間鍋竹土作陶展、山城屋茶舗京の陶磁器展、手作りアクセサリーアクセサリーアタタニハナヲ、布小もの作品展平井佳世
- 23日 梅花祭稚児舞奉納、梅まつり茶会表流山本百次会ご奉仕、中山歌翠社中琴演奏会、天神芸術村開催
- 24日 崇敬会研修旅行（北野天満宮・石清水八幡宮正式参拝）
- 19日 幸せますステーションに認定
- 20日 人形感謝祭受付終了
- 28日 人形感謝祭
- 3月1日 人形里親探し
- 1日 松崎天神縁起絵巻シンポジウム開催於アスピラート
- 4日 役員会
- 5日 安場幸子様桜苗木二本奉納
- 15日 防府北基地第73期生53名卒業奉告並航空自衛隊安全祈願祭
- 15日 合格御礼奉告祭
- 17日 茶釜祭、華月会茶会

天神様の冬から春

梅まつり



▲咲き誇る枝垂れ梅



▲出世梅配布で賑わう境内

6月30日(日)

御田植祭並びに輪くぐり神事・夏越大祓

7月1日(月)～7日(日)

七夕まつり

祭事行事予定

7月1日～7日 光の齋庭(牛乳パック灯籠と傘玉アート)
 6月29日～7月7日 小島功展(現代の浮世絵師と呼ばれた男)
(十時から十七時まで歴史館地下一階 入場無料)
 6日 七夕茶会、ひこぼし★おりひめコンサートなど
 7日 筆まつり並びに七夕まつり書道展表彰式
 七夕祈願祭 祈願料…二、〇〇〇円

※同封の短冊に
お願い事を書いて
ご奉納ください。



酒と戯る©小島功

8月3日(土)～5日(月)

御誕辰祭

御祭神「菅原道真公」のお誕生日をお祝いするお祭り



御誕辰祭献灯ボンボリ
奉納のお願い

会社・団体・個人名入れ致します。

献灯ボンボリ初穂料
(1灯): 3,000円

ご希望の方は、申込用紙をお送り致しますので、社務所までお問い合わせ下さい。申込用紙に必要事項をご記入の上、ご郵送又はFAXでご返信願います。

希望の方は、申込用紙をお送り致しますので、社務所までお問い合わせ下さい。申込用紙に必要事項をご記入の上、ご郵送又はFAXでご返信願います。

祭事行事予定

8月3日～5日 万灯の夕べ、献灯・文芸ボンボリ点灯、ビアガーデン、こどもクイズラリー、子ども花火まつり
 3日 奉納清書展奉納奉告祭、万灯祭、剣道大会、納涼カラオケ大会
 4日 豊穰祈願祭、古武道大会、柔道大会、夫婦円満祈願祭(餅まき)
 5日 御誕辰祭当日祭、少年剣道大会、弓道大会、夏祭り大花火大会

令和元年 夏・秋 これからの祭事行事



10月13日(日) 10月第2日曜日

花神子社参式

大行司・小行司役が御神幸祭の無事齋行を祈る
 大行司・小行司役が醸した一夜御酒を花神子が奉獻する社参の式であり、約五〇〇名にも及ぶ優美な時代行列が本陣から社殿まで肅々と進みます。



▲大・小行司にお供をする可愛い役付児童たち

11月15日(金)

七五三詣

神様にお子様の成長を感謝し、これからの無事を祈る



| 令和元年 七五三のお祝い | 数え年 | 満年齢 |
|-----------------|------------|------------|
| 3歳男児・女兒 髪置 | 平成 29年生 | 平成 28年生 |
| 5歳男児 袴着 | 平成 27年生 | 平成 26年生 |
| 7歳女兒 帯解 | 平成 25年生 | 平成 24年生 |

満年齢でも御祈願をお受け致します

11月23日(土) 11月第4土曜日

御神幸祭 (裸坊祭)

報賽祭(天神おんな神輿奉納)



▲日曜日の女祭

12月10・11・17・18日

大祓詞浄書会 (四回開催予定)

さかたり第103号
令和元年6月1日発行

発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029山口県防府市松崎町14-1
TEL 0835-23-7700 FAX 0835-25-0001

防府天満宮

検索

facebook

twitter

Instagram